



VOL. 27

令和6年3月  
編集・発行 印西市芸術文化協会  
TEL 0476-33-4714

第二十八回 印西市民文化祭 及び  
オンライン文化祭実施



俳句大会風景（印西市中央公民館）



印西市芸術文化協会  
会長 岩井 義春

今年度印西市芸術文化協会が創立三十周年を迎えることが出来たことは、会員による研鑽努力は言うまでもなく、印西市をはじめ教育委員会などの関係各位、そして、市民の皆様への御支援御協力の賜物と深く感謝いたしております。協会においては参加十四団体が市民文化祭をはじめ、地域に根差した事業を展開し、市の文化活動の振興に貢献しながら、次世代に継承することを目標として活動しております。人口の増加とともに価値観も多様化し、個々のグループによる活動が増加し、団体としての構成力が低下する等、会員の高齢化と合わせ多くの課題が山積しておりますが、印西市を代表する芸術文化団体として、心を癒し感動を提供できる魅力ある企画運営に力を尽くして励んでまいることこそ、協会としての存在を意味あるものにすると考えております。市民の皆様方の御参加と御支援を切にお願いすると同時に、新たな歴史を刻みながら更なる十年二十年と年輪を重ねて活動に精進してまいる所存です。今後も御指導御協力のお力添えをお願い申し上げます。



印西市長 板倉 正直

平素より印西市芸術文化協会会員の皆様方には、市の芸術文化の振興に並々ならぬご尽力を賜り厚く御礼申し上げます。貴協会におかれましては、平成五年に設立して以来、市民文化祭の主幹としての活躍をはじめ、地域や文化ホール、公民館等の市内教育施設での各種文化事業の開催など、幅広い活動を実践されておりますことに、会員の皆様方の日頃のご尽力に、深く感謝の意を表すとともに、三十周年という節目に對しお祝いを申し上げます。芸術文化活動を行うことや見たり聴いたり触れたりすることは、人の心を豊かにし、創造力を育み、安らぎや喜びをもたらす。今後、私たちの生活に多くの潤いを与えてくれます。文化発展の原動力となり、多くの市民の皆様は感動を与えていただけることをご祈念いたします。



### 舞踊協会

和田 敏子

三年に及ぶコロナ禍も、やっと収束が見え日常の生活に落ち着きを取り戻しつつあります。

今年の六月二十二日(出)に第三回「舞踊の彩典」を開催いたします。前回は、演日の最後に花笠音頭を出演者全員で踊り好評でしたので、今回は真室川音頭を踊る予定です。

此度、舞踊協会は前舞踊連盟の諸先輩をはじめ、皆様より温かいご支援ご声援を頂き感謝いたしております。会員一同なお一層努力してまいります。

日々稽古に励み、日ごろの成果を発表できること、また見て下さる方々に楽しんでいただけたら、私たちにとても大きな喜びです。会員一同皆様の御来場を心よりお待ちしております。



### 華道連盟

岩永 美月

お正月花は、新年の年神様と御客様を歓迎する迎花で、過ぎし一年の感謝と共に、新しい年の厄を払い、五穀豊穣や安寧、福を願い、数多のものへの幸せを祈る花です。

古くから縁起の良い松竹梅や菊、蘭や南天、千両等が好まれ、晦日のつく、十二月三十日と三十一日を選び、二重苦にならぬようにと十二月二十九日も慎み、二十八日まで飾るのが良いとされ、外す時期は、門松、しめ縄は、一月七日の松の内迄とされていますが、お正月花に関しては、飾り等を外し形を少し変えて長く楽しむ傾向にあります。花材も保ちますし、昔とは環境も通念も変化を遂げております。それに呼応しつつも、変わらぬに伝えるべき伝統文化と、その心を先達の元、大野会長の方、胸に刻んで華道連盟一同は歩んで参ります。



### 茶道連盟

五十嵐まゆみ

今回は茶道に使われる炭についてお話したいと思っております。御存じのように茶道では炭で湯を沸かしませ、ただ現在においては、住宅事情と炭の入手も難しくなって電熱を使用することも多くなっております。

炭を使って湯を沸かす場合、風炉(五月〜十月)と炬(十一月〜四月)では炭の量も大きさも変わります。炭は櫛が良いとされており、菊の花の様に放射状になっている景色を愛でたりしますが、他に檜や桜の炭も用いますが、火力や火の保ちが異なります。また炭を継ぐ時には各流派によって決まった点前があり、炭を置く場所もすべて決まっております。炭の点前が幻にないように炭の存在を願うばかりです。



### 能楽連合会

綿貫 真理

印誦会(観世流)に入ってから六年になります。きっかけは広報の文化祭発表者募集の記事です。それまで二十七年間都内でプロの先生に謡と仕舞を習っていたのですが、まさか、地元で謡えるとは思ってもみませんでした。恐る恐る連絡したところ、快いご返事をいただきました。稽古日にはお役を務めるとあって、うる覚えのところはしっかりおさらいするようになりました。

また、昨年の発表会では「清経」の謡と仕舞のコラボ発表をするなど新しい試みにも挑戦しました。稽古日第一本曜と第三日曜です。初心者も熟練の方も、お気軽に参加いただけます。



### 囲碁連合会

松井 宏

神明は唯平素の鍛錬に力め戦わずして既に勝てる者に、勝利の栄冠を授くる。と同時に、一勝に満足して治安に安んずる者より直ちに之を奪う。古人曰く「勝つて兎の緒をしめよ」と。これは日露戦争勝利の後、東郷大将の「連合艦隊解散の辞」の結語で、私にはこの言葉を送り続けた大好きな棋士がいた。

加藤正夫名誉王座九段である。昭和二十四年十二歳で木谷實九段入門、数々のタイトルを獲得した(総数四十七)。豪腕で「殺し屋」とも呼ばれていたが、棋風に反し人柄は温和で人望も厚く、平成十二年には日本棋院の理事長に就任、棋院の改革再生に取り組んだ。その年の暮れ、五十七歳で亡くなった。

その加藤九段がこの度(昨年十月)日本棋院殿堂入りした。囲碁の普及と発展に貢献した人物を顕彰するものであるが、江戸時代以降三十人目の殿堂入りで、ここには棋士以外にも徳川家康、正岡子規、正力松太郎、川端康成等も奉られてる。



### 俳句連盟

松井 脩

俳句連盟には四つの俳句会があります。木下手賀野俳句会(大森の中央公民館)・向日葵俳句会(中央駅前地域交流館)・ファミリア俳句会(本塾のファミリア館)・あけぼの俳句会(高花のサザンプラザ)印西地域の俳句を嗜む人、俳句を愛する人、俳句に興味を抱く人たちが集まって、自作の俳句を出し合い、鑑賞し、他の人の好い所を吸収し、自分の句へのアドバイスをもらい、より良い句ができるよう励んでおります。



## 絵画協会

横山 護

絵画協会の主たる活動は六月に開催の「印西絵画展」と、十月に開催の「秋の小品展」の二つの展覧会ですが、その他、年二回のデッサン会開催、ネットでの会員作品の配信、市民文化祭への参加、協力等々内容を充実させることにより、活動の幅はまだまだ広がる事が期待されます。

市民ギャラリーが令和七年四月に中央駅前交流館にオープン予定で、この活用次第で我々の活動内容が大きく変わる事が期待できます。これを機に益々の発展を期すことを、ここらに秘めて、今後の活動の糧にしたいと思っております。



## 将棋連合会

大脇 孝夫

プロ棋士藤井聡太が前人未踏の八冠制覇を成し遂げました。かつて羽生善治が七冠を制覇したとき、森下卓九段が全棋士の屈辱であると嘆いていたのを思い出します。今後の将棋界は誰が藤井聡太を倒すかが焦点になる事でしょう。当連合会は第二第三の藤井聡太を擁護すべく新会員の獲得に力を入れたいと考えています。昔は将棋の強者という一癖二癖あったものですが、羽生世代以降は優等生タイプが主流を占めています。素質が頑固が良いようです。性格が良くして将棋が好きという逸材がいましたら是非ご連絡をお願いします。



## 民謡連合会

齊藤 詔一

令和五年度の舞台発表は、六月に第三十四回印西民謡民舞大正琴チャリテイショーを開催しました。お客様と一緒に歌うコーナーを設け、花笠音頭とソーラン節の二曲を歌い盛況でした。十一月には印西市民文化祭においても舞踊で出演して頂き、盛り上がりのある大会となりました。

民謡という言葉が、現在ある言葉として定着したのは戦後のことでした。戦前まで民謡に当たる歌を示す言葉はいろいろありました。明治中期まで一般の用語としてはむしろ、風俗歌、俚歌、俗歌、俚謡、俗謡、巷謡、地方歌などの呼称が普通とされました。



## 短歌連盟

三ツ木 絹江

印西市短歌連盟の淵源は、昭和四十五年二月、斎藤茂吉の高弟で、当時、短歌結社「歩道」を主宰していた佐藤佐太郎の来町です。佐太郎の利根川を詠った水辺（すいへん）五首が毎日新聞に掲載されました。

四月には第一回町民短歌会が開催され、歌集「印西短歌」（現在五三号）は、昭和四十六年に発行され、今に続いています。本連盟は、水辺、山百合及びこすもすの三短歌会よりなり、各会では、毎月一度、歌会を開き、陽春及び秋の市民短歌大会を開催しています。参加をお待ちします。



## 邦楽邦舞協会

渡邊 俊子

十二月十七日にそうふけ公民館にて第十二回「舞う弾く打つ」と三回目となる「邦楽囃子体験」を開催致しました。子供教室の子供達と共に、太鼓・小鼓の他、様々な楽器で音の表現を体験致しました。水・風・波・雪・雨等、音から舞踊の表現が浮かびます。最後に、先生の三味線で「三番叟」を小鼓で合奏出来るまでになりました。

令和六年八月四日は、第十二回「邦楽と邦舞」が予定され、三年に一度の本格的な会に向け頑張っております。皆様のご来場お待ちしております。



## 書道協会

岩井 義春

書道協会の会則に「書道を通じて豊かな人生を送ることを目的とする。」の一項があります。書道は生涯を通じて学ぶことが出来る奥の深い文化ということが言えるでしょう。世代を越えた同じ道を目指す仲間が、相互の親睦を図りながら技量の向上に精進しております。

現在当協会はイオンモールの御理解御協力を得て、イオンホールにて秋の文化祭と一月の書道展の展示を行っております。多くの方にご来場いただける作品制作の励みにもなり、印西市の書道の振興と継承に役立つものと信じ、行事の開催に多くの方のお力添えを願っております。



## 園芸文化協会

青柳 文明

当会は、「陶遊会」、「盆栽愛好会」の二団体で活動しています。両会とも毎月の勉強会、発表展示会を中心に活動しています。展示発表は、主に印西市主催の市民文化祭、中央公民館活動の「みなぎき祭」で行っています。活動目的は、それぞれ好きなものを作り、趣味を通しての仲間との楽しい時間を共有することです。

両会とも、会員の高齢化により仲間の減少傾向がありますが、みんなの協力で楽しい活動をしています。陶芸、盆栽に興味がある方は、是非活動見学に参加してみませんか。連絡は各会長までお願いします。



## 歌謡連合会

稲村 清子

感染症も下火になり歌の練習も仲間と一緒に出来るようになり、元気を取り戻し、歌声も大きくなりました。

恒例となったワンポイントレッスンが好評で、参加いただく会員も沢山増えました。高齢者の多い中、若い人も参加していただいております。歌を通して若いも若きも仲間になります。今年度は文化フォーラムの会場となります。歌謡連合会からは四名の方に出場していただきます。今年度も岩澤弘子先生によるワンポイントレッスンを女性課題曲「木更津未練」、男性課題曲「二代目」として指導いただき、また先生にも二曲歌っていただきました。会場は大変盛り上がりしました。



# 創立三十周年記念式典

## 功労者表彰式

印西市芸術文化協会創立三十周年にあたり、その功労者四十名に表彰状が一人ずつ授与され、会員には後日記念品が渡されました。



受章者と来賓の皆様

## 第28回 令和5年度 印西市民文化祭 開催

2023年10月25日～12月5日 芸術文化協会会員および印西市民の参加による文化祭が6会場にて開催され、多くの参加者で盛り上がりを見せました。



文化ホール（舞踊、邦楽、能楽、歌謡、民謡、園芸・陶芸他）



イオンホール（書道、絵画他）

イオンガーデンコート（茶道、華道他）



中央公民館（俳句、短歌大会）

総合福祉センター（囲碁、将棋大会）

## 印西市芸術文化協会 14 団体

## 各会長連絡先

囲碁連合会	高野 博	(46-0488)	書道協会	岩井 義春	(42-6425)
園芸文化協会	青柳 文明	(42-3618)	短歌連盟	三ツ木 絹江	(42-2184)
絵画協会	江川 貞夫	(33-7001)	能楽連合会	三城 康照	(42-7474)
華道連盟	大野 容子	(42-2710)	俳句連盟	松井 脩	(47-6776)
歌謡連合会	栢村 清子	(42-3128)	舞踊協会	和田 敏子	(46-3523)
茶道連盟	五十嵐 まゆみ	(42-2246)	邦楽邦舞協会	渡邊 俊子	(47-3721)
将棋連合会	大脇 孝夫	(46-4020)	民謡連合会	伊藤 敦子	(46-1691)